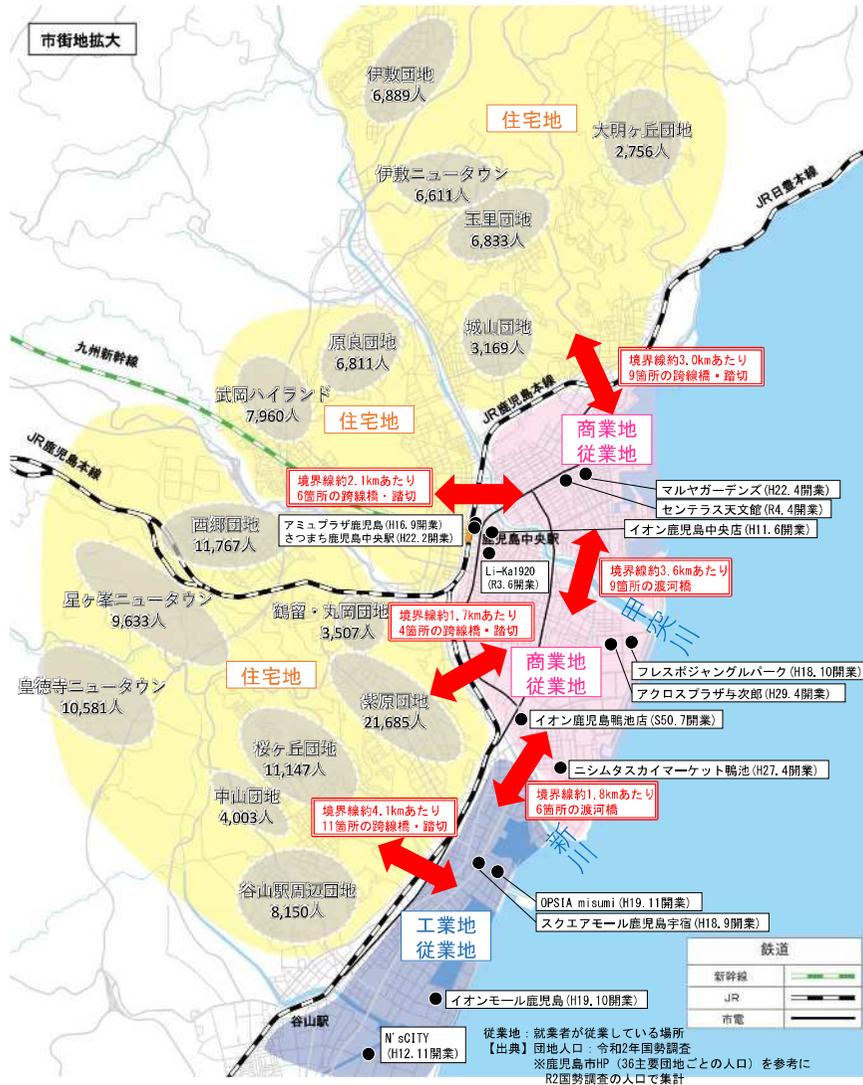


渋滞の起こる要因②(都市構造)

- 鹿児島都市圏は、市街地においても南北にJR、東西に甲突川や新川があり、市街地内でエリアが分断されています。
- 北部から西部は住宅地、東部は商業地や従業地、南部は工業地や従業地になっているため、日々通勤等の交通が多く発生しますが、JRや河川を渡る幹線道路が少ないため、エリア間の移動が制約され渋滞の原因となっています。



交通需要マネジメント(TDM)施策の概要

- 交通需要マネジメント(Transportation Demand Management)は、車利用者の交通行動の変更を促すことで交通量の抑制や調整を図り、渋滞を緩和する方法です。
- TDM施策は、以下のような取組があります。

項目	概要
①通勤費の補助 (バス、市電、JRなどの公共交通)	通勤費用の補助や、公共交通の情報提供等により、公共交通の利用を促進する。
②公共交通の利用促進	
③パーク・アンド・ライド通勤の促進	「パークアンドライド」(park and ride system)とは、自宅から最寄駅まで自家用車を使い、駅の駐車場に自家用車を止めてから公共交通機関に乗り換え、通勤する方法。車移動する時間が減るため、地球環境にやさしく、渋滞に巻き込まれず、時間通りに目的地に行くことができる。
④自転車通勤の促進	自転車・徒歩通勤の推奨により、CO ₂ の排出量が抑えられ、健康増進にもつながる。また、通勤手当等の経費が削減できる。
⑤徒歩通勤の促進	
⑥バイク通勤の促進	自動車より環境にやさしいバイク通勤への転換を促す。
⑦自動車通勤の禁止	自動車通勤を禁止し、公共交通機関利用を促す。
⑧相乗り通勤	一台のクルマに相乗りする仕組みを作り、クルマを効率的に利用する。
⑨ノーマイカーデー	普段、マイカーで通勤等している方が、公共交通機関(電車・バス)や相乗り、自転車・徒歩により、ノーマイカーに取り組む日を設ける。
⑩時差出勤、フレックスタイム制の導入	渋滞のピーク時の出勤を控え、混雑を避けた通勤を実施する。
⑪在宅勤務の導入	在宅勤務(テレワーク)を導入することでクルマを含む通勤を減らす。
⑫リモートワーク(サテライトオフィスサービス等)の導入	本社とは別のオフィスの設置や、サービスを利用することにより勤務地を分散化する。